議　事　録

件　　名		久留米市セーフコミュニティ再認証現地審査　防災対策委員会
日　　時		平成 30 年 7 月 30 日（月）15:00～16:30
場　　所		久留米広域消防本部 4 階訓練室、消防防災センター
出席者	委　員	堀委員長、田島副委員長、深山委員、高木委員、原委員、古賀（文）委員、 長岡委員、古賀（亮）委員、江藤委員、渡邊委員、草場委員、川崎委員、
	事務局	桑野主査、網中主事
	代　理	鳥越委員（合戸委員代理）
欠　席　者		大野委員、合戸委員、漆原委員
傍　聴　者		協働推進部　名、健康福祉部 1 名、他自治体　名
次　　第		１．開会 ２．出席者紹介 ３．プレゼンテーション発表「防災対策委員会の取り組みについて」 ４．青木校区自主防災活動紹介 ４．質疑応答 ５．活動視察 ６．閉会
質　　疑		○防災対策委員会
審　査　員　①		アメリカの危機管理を担っている組織が言っていることを参照すると、災害は３つの段階がある。発生する前、発生した時、発生した後の３つから成ると思うが、単純な話ではなく非常に複雑な問題として理解している。 　現代社会において、災害が発生したときは被害には様々な側面があると思う。身体のような物理的な問題ではなく、心の問題や社会的な問題にも影響する。例えば、災害が発生すると物理的に地域の繋がりが弱くなってしまったり、仲の良かった人間関係に摩擦が生じたりする。 　アメリカの危機管理組織はレジリエンスを推奨している。災害が発生してもその後の復元力が大切ということである。その復元力を培うためには、日頃からの地域の繋がりや結びつきが大切と言われている。今日の皆さんの報告を見るとその地域の繋がりが培われているように感じた。 　今後も、将来的に環境が変わり、世界的に災害が増えていくと思う。日本は世界のなかでも経験が多いので、その経験を国内だけでなく世界に発信してほしい。 ＜質問＞ 私は精神保健が専門であり、災害時の心の健康について関心がある。身体の避難は進んでいるが、心のサポート、健康面まで考えているか。要望になるが、災害発生後の精神的なサポート面まで含めて今後、検討して欲しい。 　また、既に保健の分野を加味して取り組んでいるのであれば教えて欲しい。
委　員　長		保健の分野までは取り組めていない。今回いただいた意見は、今後検討していきたい。

議　事　録

審　査　員　①	災害時はコミュニケーション手段が断たれる。情報がないために不安に感じると言われている。メディアを有効に活用して情報発信をお願いしたい。
審　査　員　②	青木校区の事例紹介はわかりやすかった。その中で子どもが参加していることが良かった。 ニュージンランドのウェリントンは地震が頻繁に発生するため、子ども達に対しての地震教育が進んでいる。ニュージーランドでは、地震が発生すると２m断層がずれることもある。ニュージーランドでは学校の授業の中でミュージアムに行って実施している。久留米市にも地震体験車はあるが、ニュージーランドでは必ず暗がりで体験させるようにしている。明るい時に比べて恐怖感が違うため、子ども達により大変な状況で体験させることができる。実際に地震が発生した際は軽症で済むという報告もされている。日頃は明るいときに地震体験をしていると思うが、状況を変えて体験させることも大事だと思うので参考にして欲しい。 スライド１３について、非常に大切な１枚だと思う。他のセーフコミュニティにも示してもらいたい。科学的に論理的に説明できていると思う。 スライド１７について、ピクトグラムは非常に大切なポイントだと感じた。外国人も多く久留米に在住しているので、公共の建物だけでなく民間の建物にも広げて欲しい。 スライド２７について、安全安心マップはとても大切だと思う。マップを作成している写真は子どもがいないように見えるため、若い世代をマップ作成に参加させて欲しい。マップ作成に関わってもらうことで地域に関心をもつようになると思う。 最後になるが、中学生、高校生などの子ども達に決定させる場面を作って欲しい。子ども達に決断させる機会を作ることで、より責任をもって考えるようになるし責任感も湧くため、将来的に地域を考えるいいチャンスになると思う。